

科目名 (英)	就職講座 Career Development	年次	1	実務経験	担当	岩本理絵、野村菜緒、内山百奏 大迫暁子
		授業形態	演習			
		時間数	30	有	開講区分	前期
学科	美容師科	単位	1		曜日・時間	火4限
講師紹介	美容業界に従事してきた講師が、就職活動に向けコミュニケーションスキルや社会人に必要な知識を習得する授業を行う。自身が身に付けた美容業界で必要とされるための知識・コミュニケーション力の発揮の仕方などをお伝えします。					
目的 科目概要	美容業界の仕事、職種内容の理解を深め、職業選択を決める。また社会人に必要な身構え、気構え、心構えを身につける。					
到達目標	プロの職業人を目指すにあたり、美容業界に必要な基礎知識・業界情報を理解し、職業選択を決定する。 笑顔であいさつができるようになっている。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 作品					
教科書	Hand-book of Life Style(6回目の授業で使用)			事前事後 学習と その内容	スケジュールを毎回確認していくので、必ず手帳に予定を書くことを癖づけてください。スケジュール管理も社会人基礎力に欠かせないものになります。	
教材	スケジュール帳・メモ帳・筆記用具					
特記事項	必要事項はメモをとること					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	クラスを知る・自己管理	自己紹介、学習能力テスト
2	クラス会議①	学校のルールを理解、クラスルールの決定
3	職業研究	人気エリアサロン散策 前教育
4	職業研究	人気エリアサロン散策 後教育 グループワークにて共有する
5	自己分析①	自分史を作成し、自分の強み弱みを知る。
6	自己分析②	自分の強みを箇条書きから文章化させる。
7	中間試験・ベルリンピックについて	自己PRを作成。750文字～800文字でまとめる。ベルリンピックについて
8	コミュニケーション力向上(伝達力)	グループワークを通して、コミュニケーション力と伝達力を身に付ける
9	クラス会議②	クラス目標に対して 中間の振り返り／ベルリンピックの説明
10	個人ワーク	コラージュ作成。想像力や表現力を鍛え、自己理解を深める
11	グループワーク	作成したコラージュをグループワークを通して他者に共有し他己理解を深める。
12	業界研究(マナー)	サロン見学の仕方、マナー、ルール、電話対応の仕方を学ぶ
13	夏休みにあたっての重要事項	長期休暇を使って、準備しておきたい項目を理解する。コンテストについて
14	定期試験	自己PR750文字～800文字。
15	定期試験振り返り	わからない分野の洗い出しをし、必要な知識の整理をする。整理をすることで職業選択の決定につなげる。

科目名 (英)	業界ゼミ Industry Collaboration	年次	1	実務経験	担当	岩本理絵、内山百奏、大迫暁子 城本光枝、佐藤翔
		授業形態	演習			
		時間数	30	有	開講区分	前期
学科	美容師科	単位	1		曜日・時間	火3限
講師紹介	美容業界に従事している現役の職業人が講師となり、職業理解をより深めるために現場で実際に用いられている道具や最新の技術・技術を習得するための参加型授業を行う。就職活動や卒業後に業界で必要となる自己ブランディング力や、社会人としてのマインドも教授します。					
目的 科目概要	業界で活躍するプロから最新の技術と現場力を学ぶ。					
到達目標	業界を知る　また学んだ技術知識を発揮する					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 ☐ 筆記試験 ☒ 実技試験 ☐ 作品					
教科書				事前事後 学習と その内容	来ていただく業界は事前にしらべておきましょう。また必ず授業後に振り返りをしっかりしていきましょう。	
教材	メモ帳・筆記用具・iPad					
特記事項	講義及び掲示物について、著作権のある資料も使うことがある為 写真撮影及び録音録画を禁止する					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	美容全般の技術を学ぶ①	ヘア、メイク、ブライダルの幅広い技術の応用、実際に現場で実施している技術を学ぶ
2	美容全般の技術を学ぶ②	ヘア、メイク、ブライダルの幅広い技術の応用、実際に現場で実施している技術を学ぶ
3	美容全般の技術を学ぶ③	ヘア、メイク、ブライダルの幅広い技術の応用、実際に現場で実施している技術を学ぶ
4	美容全般の技術を学ぶ④	ヘア、メイク、ブライダルの幅広い技術の応用、実際に現場で実施している技術を学ぶ
5	美容全般の技術を学ぶ⑤	ヘア、メイク、ブライダルの幅広い技術の応用、実際に現場で実施している技術を学ぶ
6	美容全般の技術を学ぶ⑥	ヘア、メイク、ブライダルの幅広い技術の応用、実際に現場で実施している技術を学ぶ
7	プレゼンテーション①	ヘア、メイク、ブライダルの幅広い技術の応用、実際に現場で実施している技術を学ぶ
8	美容全般の技術を学ぶ⑦	ヘア、メイク、ブライダルの幅広い技術の応用 現場に応じた一連の作業工程を学ぶ
9	美容全般の技術を学ぶ⑧	ヘア、メイク、ブライダルの幅広い技術の応用 現場に応じた一連の作業工程を学ぶ
10	美容全般の技術を学ぶ⑨	学んだ技術を使用し、作品を作る
11	美容全般の技術を学ぶ⑩	実施に作った作品を写真ではどう見えるか知る。
12	美容全般の技術を学ぶ⑪	9～11回の授業振り返り、課題の克服する
13	美容全般の技術を学ぶ⑫	学んだ技術を使用し、作品を作る
14	美容全般の技術を学ぶ⑬	実施に作った作品を写真ではどう見えるか知る。
15	美容全般の技術を学ぶ⑭	プロから評価をしていただく

科目名 (英)	文化論 Theory of cultural	年次	1	実務経験	担当	青柳 光子
		授業形態	講義			
		時間数	30	有	開講区分	前期
学科	美容師科	単位	1		曜日・時間	月1,4,5限
講師紹介	海外にて美容業実務経験のある教員が、自身の経験を活かし他国と日本の文化を分析・比較し解説します。他国と異なる自国の文化的魅力を学び、文化がファッションなど装いに与える影響や成り立ちを歴史から紐解くことで、日本独自の美容現代文化がどのように形成されたのかを楽しくお伝えします。					
目的 科目概要	文化論を学ぶことで、新しいデザインのヒントを見つけると共に流行を発信できる力を身につける。					
到達目標	ファッションの歴史を理解を深めることで、ファッション全体の視野を広げることができるようになる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A（4.0）、89点～80点B（3.0）、79点～70点C（2.0）、69点～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。（ ）は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □提出課題					
教科書	日本理容美容教育センター「文化論」			事前事後 学習と その内容	教科書を基本に時代背景、ファッション文化（髪型・化粧・服装）年表を作成することで、各時代の特徴を見つけることができる。	
教材	PowerPoint					
特記事項	講義及び掲示資料について、著作権の資料を用いた場合を除き、写真撮影を許可する。					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	オリエンテーション/第1章「総論」	「文化論とは」 授業説明 (到達目標・評価基準・定期試験・授業進行・オンデマンド授業説明)
2	第2章日本の理容業・美容業の歴史	理容業・美容業の登場 (江戸・近代・現代)時代
3	第3章ファッション文化史 日本編 第1節～2節	日本の髪型・化粧・服装のファッション文化の変化を知る。
4	第3章 第3節～第4節	日本の髪型・化粧・服装のファッション文化の変化を知る。
5	第3章 第5節	江戸時代の髪型・化粧・服装のファッション文化ポイントを知る。
6	第3章	第1節～5節のまとめ
7	総合まとめ	前期 中間試験
8	第4章ファッション文化史西洋編 第1節～4節	西洋の髪型・化粧・服装のファッション文化ポイントを知る。
9	第4章 第5節～9節	西洋の髪型・化粧・服装のファッション文化ポイントを知る。
10	第4章 第10節～11節	西洋の髪型・化粧・服装のファッション文化ポイントを知る。
11	第4章 第12節～14節	西洋の髪型・化粧・服装のファッション文化ポイントを知る。
12	第4章 第15節～16節	西洋の髪型・化粧・服装のファッション文化ポイントを知る。
13	総合まとめ	ファッション文化史 西洋編・まとめ
14	ファッション文化史	前期 期末試験
15	礼装の種類	洋装の礼装

科目名	保健 Health	年次	1	実務経験	担当	青柳 光子
(英)		授業形態	講義			
学科		美容師科	時間数	30	有	開講区分
		単位	1	曜日・時間		水2～4限
講師紹介	美容業に従事した経験を持つ教員が、お客様に信頼と安心を提供できるようになることを目標に美容師の目線での「保健」を教授します。ヴィダル・サスーンの名言「ヘアカットは髪を切るだけではなく、その骨格を研究することなんだ。」が表現するように、美容と保健には深い繋がりがああるということを楽しくお伝えします。					
目的 科目概要	美容と保健の繋がりを理解することで、幅広い接客と安全に施術できる環境状態を判断することが、学生にとって技術提供をする前準備として重要な事だと知る。					
到達目標	美容と保健の重要性を深く理解することで、お客様に寄り添った施術構成を考えられるようになる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A（4.0）、89点～80点B（3.0）、79点～70点C(2.0)、69点～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。（ ）は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □提出課題					
教科書	日本理容美容教育センター「保健」			事前事後 学習と その内容	①教科書を理解する。 ②美容と保健の繋がりを理解する。	
教材	PowerPoint・カルタ					
特記事項	講義及び揭示資料について、著作権の資料を用いた場合を除き、写真撮影を許可する。					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	「なぜ？保健」 授業説明(到達目標・評価基準・授業進行・授業ルール・オンデマンド授業説明)
2	第1編 人体の構造及び機能 第1章 頭部・顔部・頸部の体表解剖学	(1項) 人体各部の名称 (2項) 頭頸部の体表解剖学
3	第2章 骨格器系	(1項) 骨の種類と構造 (2項) 骨の連結 (3項) 骨格器系とそのはたらき
4	第3章 筋系	(1項) 筋の種類と特徴 (2項) 主な骨格筋とそのはたらき (3項) 表情筋と表情運動
5	第4章 神経系	(1項) 神経系の成り立ち (2項) 中枢神経系とそのはたらき (3項) 末梢神経系とそのはたらき
6	第5章 感覚器系	(1項) 視覚 (2項) 聴覚 (3項) 平衡感覚 (4項) 味覚 (5項) 臭覚 (6項) 皮膚感覚
7	まとめ I	前期 中間試験
8	総合まとめ I	・第1章～第5章 ・理解が不十分なところを見つけ復習する。
9	第6章 血液と免疫系	(1項) 血液のあらまし (2項) 免疫のあらまし (3項) アレルギー
10	第7章 循環器系	(1項) 心臓のあらまし (2項) 血液循環の仕組み (3項) 血液の循環経路 (4項) リンパ管の仕組みとはたらき
11	第8章 呼吸器系	(1項) 呼吸器系のあらま (2項) 気道 (3項) 肺の仕組みとガス交換 (4項) 呼吸運動
12	第9章 消化器系	(1項) 消化器系のあらまし (2項) 消化管のお仕組み (3項) 消化管のはたらき (4項) 消化管と物質代謝
13	まとめ II	・第6章～第9章 ・理解が不十分なところを見つけ復習する。
14	総合まとめまとめ II	前期 期末試験
15	前期 総合まとめ	第1章～第9章

科目名 (英)	美容技術理論 Beauty technology theory	年次	1	実務経験	担当	加藤 亜希
		授業形態	講義			
		時間数	30	有	開講区分	前期
学科	美容師科	単位	1		曜日・時間	水2～4 限
講師紹介	現役美容師として現場に立つ講師が、実践経験と技術理論をふまえ美容従事者及び国家試験受験者に向けた基本から応用を含む知識・技術をお伝えします。					
目的 科目概要	美容師やメイクアップアーティストとして、流行を提供するリーダー的存在であると同時に、基本となるベーシック理論・知識を持ってこそ、本当のプロと呼べる。美容のプロとして、お客様の立場に立ち、そして幅広く、そして専門的な知識を学びそれを生かせるようになる。					
到達目標	・美容技術における概論・名称・手順・注意事項などを焦点に、様々な美容技術の基本を学び、生かすことができる。・国家試験課題を想定して、問題を解くことができる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □実技試験 □ 作品 ■ 提出課題					
教科書	美容技術理論 I			事前事後 学習と その内容	授業ノートの提出有り	
教材	筆記用具・iPad・美容技術理論用のノート1冊					
特記事項	※進行状況により前後する場合があります、しっかり動画と次の準備を聞いておいてください。					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	授業説明・序章	オンデマンド授業での出席と成績について/序章 美容技術理論を学ぶにあたって
2	1章 美容道具	美容技術理論 I (P20～)コーム・ブラシ/シザーズ・レザー (P96～)作業姿勢・ブロッキング
3	1章 美容道具	美容技術理論 I (P21～)コーム・ブラシ/シザーズ・レザー (P94美容刃物)
4	1章 美容道具	美容技術理論 I (P29～)ピン類、ロッド、ローラー/ヘアアイロン・ドライヤーなど
5	2章 シャンプーイング	美容技術理論 I (P38～)シャンプーのメカニズム・サイドシャンプー・バックシャンプー
6	2章 シャンプーイング	美容技術理論 I (P53～)リンス・コンディショナー・トリートメント
7	中間試験	第1～6回の全範囲
8	振り返り/2章 シャンプーイング	中間テストの振り返りと見直しの仕方
9	2章 シャンプーイング	美容技術理論 I (P53～)リンス・コンディショナー・トリートメント
10	2章 シャンプーイング	美容技術理論 I (P53～)リンス・コンディショナー・トリートメント
11	3章 ヘアデザイン	美容技術理論 I (P68～)錯視・デザインの要素・バランス
12	3章 ヘアデザイン	美容技術理論 I (P68～)錯視・デザインの要素・バランス
13	4章 ヘアカッティング	美容技術理論 I (P90～P107)ベーシックなカット技法
14	定期試験	第8～13回の全範囲
15	試験の振り返り	定期試験の振り返りと、見直しの仕方

科目名 (英)	美容実習 Beauty Practice	年次	1	実務経験	担当	竹内 有美
		授業形態	実習			
		時間数	60			
学科	美容師科	単位	2	有	開講区分	前期
					曜日・時間	火1,2限・木1～4限
講師紹介	美容師として長きに渡り現場に立ち実務経験のある講師が、カットとブローの基礎的な理論・技術をわかりやすく指導します。					
目的 科目概要	目的:カットとブローの基礎的な理論・技術を習得する。概要:カットのベーシックスタイルを学び、スタイルに合わせたブローで仕上げ、時間内に完成することができる。					
到達目標	ベーシックスタイルの理論・技術を理解でき、正しい姿勢とシザー開閉を身につける。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ☐ 筆記試験 ☒ 実技試験					
教科書	美容実習 I 美容技術理論 I	事前事後 学習と その内容	シザー開閉の練習を行い、取り扱いに慣れる。			
教材	マニュアル・動画					
特記事項	欠席した場合は、マニュアル・動画で学習してから授業に臨む					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	用具の使い方・セッティング ウイッグ①新品	用具の確認、使い方、セッティングについて・専門用語の説明・コームとシザーワーク
2	ワンレングスカット・ブロー ウイッグ①	準備7分・シザー開閉・ワンレングスカット・ハンドブロー
3	ワンレングスカット・ブロー ウイッグ①	準備7分・シザー開閉・ワンレングスカット・ハーフラウンドブラシでブロー
4	ワンレングスカット・ブロー ウイッグ①	準備7分・シザー開閉・ブロー強化
5	ワンレングスカット・ブロー ウイッグ②新品	準備7分・シザー開閉・ワンレングスカット・ブロー(60分)・中間試験について
6	ワンレングスカット・ブロー ウイッグ②	準備7分・シザー開閉・ワンレングスカット・ブロー(60分)
7	中間試験 ウイッグ③新品	ワンレングスカット・ブロー(60分)
8	振り返り・前髪カット ウイッグ③	評価を踏まえて課題の確認・準備7分・前髪カット・アレンジ
9	ミニボブスタイル ウイッグ③	準備7分・ミニボブカット
10	ローレイヤーカット ウイッグ④新品	準備7分・ローレイヤーカットの手順を覚える
11	ローレイヤーカットウイッグ④	準備7分・ローレイヤーカット・ハーフラウンドブラシ、ロールブラシを使ってブロー
12	ローレイヤーカット ウイッグ⑤新品	準備7分・ローレイヤーカット・ハーフラウンドブラシ、ロールブラシを使ってブロー
13	ローレイヤーカット ウイッグ⑥新品	準備7分・ローレイヤーカット・ブロー、アイロン仕上げ
14	ローレイヤーカットウイッグ⑦新品	準備7分・ローレイヤーカット・ハーフラウンドブラシ、ロールブラシを使ってブロー
15	定期試験 ウイッグ⑧新品	ローレイヤーカット・ブロー

科目名 (英)	美容実習 Beauty Practice	年次	1	実務経験	担当	小坪 亜矢子
		授業形態	実習			
		時間数	60			
学科	美容師科	単位	2	有	開講区分	前期
					曜日・時間	火1,2限・金1～4限
講師紹介	長年美容師として現場に立ち実務経験のある講師が、美容師の国家試験に合格するための技術・知識・心得を習得する授業を行う。					
目的 科目概要	目的:国家試験科目であるワインディングの基礎技術を習得し、国家試験合格に向けて技術を向上させていく。パーマをかける理論を習得する。 概要:コツコツと練習し、基礎力を定着させる。					
到達目標	基礎技術を身につけ、完璧なワインディング作品を模倣する。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A（4.0）、89点～80点B（3.0）、79点～70点C（2.0）、69点～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。（ ）は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ☐ 筆記試験 ☒ 実技試験 ☐ 作品 ☐ 提出課題					
教科書	美容技術理論・美容実習			事前事後 学習と その内容	①手順と作り方を覚えてから授業に参加する事。理解不足、技術不足は授業外で自習すること。 ②自宅等でロッドを転がす練習や巻き込みが素早く出来る練習など自主的に行う。	
教材	WD道具一式・タブレット(teamsの資料・動画)					
特記事項	欠席をした場合は、復習してから授業に臨む。					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	用具使い方・セッティング	・前期の流れについて ・準備物とセッティングの説明 ・頭部名称 ・道具の使い方 ・授業のルール ・5ブロッキング ・下巻き導入 ・ウィッグの洗い方について
2	国家試験スタイル	・準備時間7分 ・忘れ物チェック ・5ブロッキング3分 ・下巻き1本2分 ・上巻き導入 ・ステムの角度と方向の強化
3	国家試験スタイル	・準備時間7分 ・忘れ物チェック ・5ブロッキング3分 ・センター30分 ・ステムの角度と方向の強化 ・巻方チェック(上下)
4	国家試験スタイル	・準備時間7分 ・忘れ物チェック ・5ブロッキング3分 ・センター30分 ・ステムの角度と方向の強化 ・巻方チェック(上下)
5	国家試験スタイル 中間試験採点項目について	・準備時間7分 ・忘れ物チェック ・5ブロッキング3分 ・センター30分 ・ステムの角度と方向の強化 ・巻方チェック(上下)
6	国家試験スタイル	・準備時間7分 ・忘れ物チェック ・5ブロッキング3分 ・センター30分 ・ステムの角度と方向の強化 ・巻方チェック(上下)
7	国家試験スタイル	・5ブロッキング3分 ・センター30分
8	国家試験スタイル	・準備時間7分 ・忘れ物チェック ・3ブロッキング2分 ・センター25分 ・フロント3本、サイドブロッキング、サイド4本の導入
9	国家試験スタイル	・準備時間7分 ・忘れ物チェック ・3ブロッキング2分 ・センター20分 ・右面の導入
10	国家試験スタイル	・準備時間7分 ・忘れ物チェック ・3ブロッキング2分 ・センター15分 ・右面30分 ・左面の導入
11	国家試験スタイル	・準備時間7分 ・忘れ物チェック ・3ブロッキング2分 ・センター15分 ・右面25分 ・左面25分
12	国家試験スタイル 定期試験採点項目について	・準備時間7分 ・忘れ物チェック ・3ブロッキング2分 ・全頭54分(ブロッキング込み、1本1分のスピード、クオリティアップ)
13	国家試験スタイル	・準備時間7分 ・忘れ物チェック ・3ブロッキング2分 ・全頭54分(ブロッキング込み、1本1分のスピード、クオリティアップ)
14	定期試験 / パーマかけについて	・3ブロッキング2分 ・全頭54分 ・パーマかけのブロッキング /12ミリまで巻く
15	試験振り返り・パーマをかける	・オールウェーブのウィッグにパーマをかける

科目名 (英)	美容実習 Beauty Practice	年次	1	実務経験	担当	宮城 裕美
		授業形態	実習			
		時間数	60	有	開講区分	
学科	美容師科	単位	2			曜日・時間
講師紹介	長年に渡り美容師として現場で従事し、美容学校にて講師経験のある教員が、美容師の国家試験課題に必要な技術・知識・心得を習得する授業を行う。					
目的 科目概要	接客を行う際の立ち振る舞いを理解し、お客様への対応やサイドシャンプーイング技術を習得する					
到達目標	お客様のご案内からシャンプー台の使用方法、シャンプーイングの手順、ドライイングまでを習得する					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ☐ 筆記試験 ☒ 実技試験 ☐ 作品 ☐ 提出課題					
教科書	美容実習1 美容技術理論1			事前事後 学習と その内容	声かけやご案内は美容室や他業種の店舗に来店したとき、観察するとよい。シャンプーの手順はお店によって異なるが授業での手順をしっかりと覚え、自分の頭を使い自宅で演習すること。	
教材	シャンプー用具一式					
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	シャンプーの基礎知識	授業の進め方・目標・採点方法・注意事項について 美容技術理論・相モデルで練習
2	シャンプーの基礎知識 手順	美容技術理論・相モデルで練習
3	実践	相モデルで練習 フィードバック
4	実践	相モデルで練習 フィードバック
5	実践	相モデルで練習
6	中間試験について	中間試験の採点項目に基づいて、相モデルで練習
7	中間試験	テスト フィードバック
8	中間試験 振り返り・返却	中間試験の復習、練習
9	実践	相モデルで練習 フィードバック
10	実践	相モデルで練習 フィードバック
11	実践	相モデルで練習 フィードバック
12	実践	相モデルで練習 フィードバック
13	定期試験について	定期試験内容の確認、相モデルで練習
14	定期試験	相モデルでテスト フィードバック
15	定期試験 振り返り・返却	定期試験できていなかった箇所、部分の確認、練習

科目名 (英)	美容総合技術 Comprehensive beauty technology	年次	1	実務経験	担当	高橋 名都紀
		授業形態	演習			
		時間数	30	有	開講区分	前期
学科	美容師科	単位	1		曜日・時間	月2～4限
講師紹介	カラーリスト歴:13年 個人サロンを立ち上げ、個人だけではなく、企業、行政、学校などでパーソナルカラー診断・骨格診断・顔タイプ診断、メイクアドバイスを年間500名以上の方々へアドバイスを行っている講師が、色彩に関する知識だけでなく、色感やスキルアップ、ファッション&メイクセンスアップにつながるような実践的なお話やアドバイスをいたします。					
目的 科目概要	目的:似合う色を活用するポイントを学ぶことで、TPOに合わせた自分の魅せ方(自分ブランディングの仕方)を学びます。 概要:パーソナルカラーの探し方や取り入れ方の基礎、そのもとになる色彩学の基礎を習得します。 実習で自分の似合う色を体感し、パーソナルカラーを通して「自分らしさ」を見つけます。					
到達目標	客観的に自分にはどのような色が似合うかを学び、「自分ブランディング」ができるようになる事で自分に自信を持ち、自己表現の幅を広げること。 パーソナルカラー検定3級(2025年度夏季)の合格を目指します。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □実技試験 □ 作品 □提出課題					
教科書	色彩活用パーソナルカラー検定 公式テキスト3級			事前事後 学習と その内容	授業の進行に合わせて必要がある場合は、ホームワークとして課題、復習、問題集、プリントの課題を実施いたします。 もし授業を欠席した場合は、授業の要点をまとめたものをTeamsにアップロードするので、必ず確認しましょう。(復習として使用可○)	
教材	新配色カード199a、新配色カード199a演習台紙、公式問題集、過去問題					
特記事項	【カラーワーク】がある日は、必ず「はさみ、のり」を持参してください。					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	オリエンテーション パーソナルカラーと自分ブランディングについて	授業のオリエンテーション パーソナルカラー(似合う色)を知ることのメリットと概要を理解する。【カラーワーク】
2	色の三属性(色相、明度、彩度)	色彩の基本である色の三属性(色相、明度、彩度)を学ぶ。
3	トーン(色の調子)	トーンの見え方と仕組みを理解する。 身の周りの色や指定された色をトーンでとらえられるように、慣れる。
4	パーソナルカラーの色分け 4シーズンのカラーパレット	パーソナルカラーの色分け【カラーワーク】 4シーズンの色の特徴を見分け、色分類ができるように、色感を磨く。
5	色素の見分け方 色素チェック	生まれながらに持った色素(肌、髪、眼の色と質感)の特徴の見分け方のポイントと、色素と似合う色の関係性を学ぶ。自分はどんな色素を持っているのかを確認する。
6	似合う色の取り入れ方	4シーズンの似合う色の取り入れ方(ファッション、メイク、アクセサリ、柄、素材) 似合わない色の見え方も確認する。
7	中間試験 ドレーピングの仕方	20問/20点満点 選択問題 ドレーピングによる似合う色の見つけ方をおさえ、実習に備える。
8	反射・吸収 色と光	色はなぜ見えるのか? 色と光の関係性を学ぶ。 検定に備えて過去問題を解き、問題に慣れる。
9	対比 色名	色による顔色の見え方の変化を理解する。 系統色名と慣用色名の色の名前の使い分けのポイントを学ぶ。
10	復習 検定対策	復習しながら過去問題を解き、検定問題の傾向をつかむ。 検定に出やすいポイントをおさえる。
11	復習 検定対策	復習しながら過去問題を解き、検定問題の傾向をつかむ。 検定に出やすいポイントをおさえる。
12	パーソナルカラー検定	試験時間:60分 問題数:全89問 形式:マークシート 合格ライン80%
13	定期試験 ドレーピング実習①	30問/50点満点 選択問題 ドレーピングによるパーソナルカラー診断の実習 グループに分かれ、ドレープを比較しながら、お互いの似合う色を確認する。
14	ドレーピング実習②	ドレーピングによるパーソナルカラー診断の実習 グループに分かれ、ドレープを比較しながら、お互いの似合う色を確認する。
15	ドレーピングのまとめ ふりかえり	自分ブランディングとは? 美容に活かすパーソナルカラーについて

科目名 (英)	美容総合技術 Comprehensive beauty technology	年次	1	実務経験	担当	塚本 博美
		授業形態	演習			
		時間数	30	有	開講区分	前期
学科	美容師科	単位	1		曜日・時間	月1～3限
講師紹介	企業研修マナー講師・産業カウンセラー・サービス接客インストラクター・おもてなしマスター講師が就職現場に基づいた「おもてなし」が出来るよう細かく指導し、「おもてなしマスター検定」に必ず合格させます。顧客満足を考え、日頃から何気ない立ち居振る舞いや笑顔、癖なども注意を促して行き、業界人として必要な所作をお伝えします。(例えば配布物の受け渡しなども接客マナーに沿ったやり方を細かく指導し現場で使えるようにしていきます。					
目的 科目概要	目的:おもてなしマスター検定合格 職場の人間関係に於いて必要なコミュニケーション技術を身につけ、おもてなし検定合格を目指します。					概要:
到達目標	おもてなしマスター検定資格試験に合格する。合格の為に必要な「おもてなしの心」「おもてなしの型」「スキル」を身につけ実践することが出来る。今まで知らなかった接客敬語をマスターし使えるようになる。(小テスト)					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □実技試験 □ 作品 □提出課題					
教科書	「おもてなしマスター」資格検定教本			事前事後 学習と その内容	日々自分がお客様として店頭に立った際に「おもてなし」を意識する感覚を磨く。お客様の立場で満足・不満足的心境を知る。どんなサービスがお客様に喜ばれるのかを考える。好印象を持って貰えるように日頃から立ち居振る舞いに注意する。 後半は過去の試験問題を解きながら試験形式に慣れるようにします。	
教材	プリント(補助教材)					
特記事項	集中力を高めるために毎授業、接客敬語をテストし敬語に慣れるようにします。心理テストを行い自分を理解します。教本1冊を15回のjv行内で行います。 「おもてなしマスター検定」に合格するためには、授業を休まないことが必須条件です。					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	オリエンテーション・おもてなし検定について	将来どのようなお客様と接しても「おもてなしのプロ」として接客出来るスキルを身につける為の大切な授業であることの意識付け。
2	ニコニコトレーニング・おもてなし体験について	お客様対応に於いて「笑顔の重要性」を学びます。おもてなしは日本が世界に誇る素晴らしい文化であること。人生で成功するための鍵であることを指導。
3	おもてなしの心について理解する	「利他の心」「一期一会」「期待を超える」お客様の心理を知る。
4	おもてなしの型とは	おもてなしの基本となる「5つの型」「スキル」を理解する。
5	傾聴スキル「聞く」と「聴く」の違い	サービス業に於いて必要な「傾聴スキル」を学び、アクティブリスニングのコツをトレーニングします。傾聴スキルの自己評価で自分の癖を知ります。
6	タイムルール・時間管理	お客様をおもてなしするときに注意するべき「時間管理」を学ぶ。
7	中間試験	1回目から6回目を振り返り中間試験を実施。
8	事前調査・環境設定	お客様に快適と安心を与える空間とはどんな空間でどんな要素が必要なのかを知る。事前調査で知り得たお客様の属性や個性を反映させた環境作りを考える。
9	場面演出	場面演出を理解する。変化に対応出来る力を身につける。特にイレギュラーな出来事への対応を考える。
10	イベント演出スキル	即断即決の柔軟な対応でお客様を不快にさせない。アサーティブな自己表現を身につける。
11	変化対応・アサーション	お客様からクレームをいただいた際の処理解決に必要なアサーションを学ぶ。
12	ホジティブシンキング・ストレスマネジメント・エゴグラム	変化対応におけるポジティブシンキング・ストレスマネジメントの必要性を理解する。お客様を理解する手がかりの一つとしてエゴグラム活用法を知る。自分自身の心の癖を知る。
13	なぜなぜシンキング・KJ法・コーチング	「なりたい姿」に人を導くため、自分を導くためのビジネススキルを学び今後のおもてなしに活かす。
14	過去問題	過去に行ったおもてなし検定問題を解きながら、陥りやすい点に気をつけて全員合格を目指す。
15	おもてなし検定受験日	授業の振り返り。おもてなし検定実施。

科目名 (英)	美容総合技術 Comprehensive beauty technology	年次	1	実務経験	担当	足立 祐季
		授業形態	演習			
		時間数	60	有	開講区分	前期
学科	美容師科	単位	2		曜日・時間	1組木曜1.2限 2組金曜日3.4限 3組木曜3.4限
講師紹介	化粧品メーカーのイベント等や広告媒体の第一線で活躍している現役ヘアメイクアップアーティストが基礎マナーを初めとする道具の使い方、メンテナンス方法、ベーシックメイクスキルを教える。□					
目的 科目概要	メイク製品の知識、道具の使い方、基礎となるプロセスを学び、美容室、ヘアメイク、マツエクサロン等で必須となる基本技術や知識を身につける□					
到達目標	事前消毒をはじめ、美しい環境、道具の使い方を大切にモデルの骨格に合ったフルメイク、カジュアルなヘアセットを美しく仕上げる。□					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A（4.0）、89点～80点B（3.0）、79点～70点C（2.0）、69点～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。（ ）は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 □ 筆記試験 ■実技試験 □ 作品 □提出課題					
教科書	メイクアップ基礎Basic Makeup Technique&Theory			事前事後 学習と その内容	専門用語、実技スキルが必要となる為実習後は授業内のメモ等を活用し技術の復習を行い、専門用語は必ず覚える事。□	
教材	メイク道具一式					
特記事項	肌が弱く教材が使用できない場合事前に報告をする□					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	自己紹介、検品、テーブルセッティングを学ぶ	ブラシ、アイテム等の名称、役割、メンテナンス方法を学び、作業時の身だしを学習する
2	スキンケア、ベースメイク	美しいベースメイクに必要な下地、コントロールカラーについて、ファンデーションの塗布の仕方、コンシーラーを使ったトラブルカバーを覚える。
3	チーク、ハイライト、ローライト	顔の立体を理解し、血色づくりや凹凸感を出すのに必要なテクニックを覚える
4	アイシャドウ	目の形にあったシャドウの入れ方、美しいグラデーションの作り方、色の選択方法を覚える
5	アイラインナー、アイラッシュ	ガツツキのない美しいラインの描き方、美しいカールを作るプロセスを覚える。角度に対しての印象の変え方、違いを覚える
6	アイブロウ、リップ	アイブロウの毛の生え方を理解し、美しく描く、唇の輪郭に合わせて美しくルージュを引く
7	中間試験30分フルメイク	事前消毒をはじめ、美しい環境、道具の使い方を大切に40分以内でモデルの骨格にあったフルメイクを美しく仕上げる
8	パック、クレンジング、フェイスマッサージ	中間試験のフィードバックとクレンジング、小顔フェイスマッサージを学ぶ
9	ストレートアイロン 編み込み	ストレートアイロン、編み込みの表、裏編みをのプロセスを学ぶ
10	コテ巻き、ゴム一束	内巻き、外巻き、ミックス巻きを覚える、ゴム結ができるようになる
11	ピニング	基本の5点どめのプロセス、強度のある仕上がりを目指す
12	グループワークデッサンシート作成	グループワークに向けてチームを作り、デッサンシートの作成をする。
13	ハーフアップ	ハーフアップのプロセスを学び、定期試験に向けて練習をする
14	定期試験ハーフアップ30分	美しいハーフアップが作れるようになる
15	グループワーク先品作り	定期試験のフィードバックをし、反省を生かしグループで作品を作る

科目名 (英)	就職講座 Career Development	年次	1	実務経験	担当	岩本理絵、南本和幸、野村菜緒、 内山百奏、大迫暁子
		授業形態	演習			
		時間数	30	有	開講区分	後期
学科	美容師科	単位	1		曜日・時間	水1限
講師紹介	美容業界に従事してきた講師が、就職活動に向けコミュニケーションスキルや社会人に必要な知識を習得する授業を行う。自身が身に付けた美容業界で必要とされるための知識・コミュニケーション力の発揮の仕方などをお伝えします。					
目的 科目概要	美容の仕事で、どのような知識・技術・接客が必要であるかを知る。また業界ではどのような人材が必要とされるかを知る。					
到達目標	美容の仕事を深く理解し、どのような知識・技術が必要で、業界はどのような人物が必要とされているか理解する。 希望職種内定のために、必要な就職マナーが備わっている。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □実技試験 □ 作品 □提出課題					
教科書	Hand-book of Life Style			事前事後 学習と その内容	就職活動や面接に向けて、人前でも自信を持って自己PR出来るようになる。その為に、練習を重ねて早期に自分の強みと弱点を把握し対策出来るようになる。	
教材	iPad					
特記事項	必要なことはメモをとる					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	面接準備①	言葉遣いについて理解する。履歴書・話し言葉
2	面接準備②	模擬面接の実施。サロン・トータルビューティサロン・企業の人事の方に来校していただく。そこで、自己PRといくつかの質疑応答をしていただく。人前で堂々と話せるようになる。
3	面接準備③	面接のポイント 面接の動き・流れを覚える。(話し方・声の大きさ・目線・立ち方・座り方など)
4	面接準備④(企業来校)	面接のポイント 面接の動き・流れを覚える。(話し方・声の大きさ・目線・立ち方・座り方など)について実施したことを振り返り、模擬面接に活かせるようにしていく。
5	面接準備 ⑤	面接練習:4～5名1チーム、面接官役:2名、受験者役:2～3名 判定試験
6	模擬面接(企業来校)	模擬面接の実施。サロン・トータルビューティサロン・企業の人事の方に来校していただく。そこで、自己PRといくつかの質疑応答をしていただく。人前で堂々と話せるようになる。
7	中間試験・模擬面接の振り返り	就職活動でのマナー、その際の学校でのルールについて(10点) 送付状の書き方(10点)、模擬面接の振り返り
8	就職フェア	面接のポイント 面接の動き・流れを覚える。(話し方・声の大きさ・目線・立ち方・座り方など)※動画参照
9	就職活動準備①	求人情報の見方について学ぶ
10	就職活動準備②	履歴書について 本人情報、学歴、資格欄の書き方を理解する
11	就職活動準備③	履歴書について 志望動機や自己PRなど書き方を理解する
12	就職活動準備④	履歴書について 就職希望先サロンにあわせたエントリーシートを確認し、記入できるように理解する
13	面接練習④	面接練習:4～5名1チーム、面接官役:2名、受験者役:2～3名 判定試験
14	面接練習②	面接練習:4～5名1チーム、面接官役:2名、受験者役:2～3名 判定試験
15	定期試験	面接 内容:自己紹介と自己PR 入退室の流れ(5点)、所作(5点)、姿勢(5点)、声の大きさ(5点)、目線(5点)

科目名	保健 Health	年次	1	実務経験	担当	青柳 光子
(英)		授業形態	講義		有	
学科		美容師科	時間数	30		曜日・時間
		単位	1			
講師紹介	美容業に従事した経験を持つ教員が、お客様に信頼と安心を提供できるようになることを目標に美容師の目線での「保健」を教授します。ヴィダル・サスーンの名言「ヘアカットは髪を切るだけではなく、その骨格を研究することなんだ。」が表現するように、美容と保健には深い繋がりがあるということを楽しくお伝えします。					
目的 科目概要	保健が美容にとっていかに重要な役割があるかを教科書を通じて理解する。また、日常生活に役立つ知識を身につける。					
到達目標	単元ごとの重要ポイントを理解できるようになり、美容と結びつく説明ができるようになる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □提出課題					
教科書	公益社団法人 日本理容美容教育センター 「保健」			事前事後 学習と その内容	①教科書の使い方とオリジナルノート作成に力をいれる。 ②美容と保健の繋がりを理解する。	
教材	PowerPoint					
特記事項	講義及び掲示資料について、著作権の資料を用いた場合を除き、写真撮影を許可する。					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	第2編 皮膚科学 第1章 皮膚の構造	(1項) 皮膚の表面 (2項) 皮膚の断面 (3項) 表皮
2	第1章 皮膚の構造	(5項) 真皮 (6項)皮下組織と皮下脂肪 (7項) 皮膚の部位差
3	第2章 皮膚付属器官の構造	(1項) 毛 (2項) 脂腺(皮脂腺) (3項) 汗腺
4	第3章 皮膚の循環器系と神経系	(1項) 皮膚の血管 (2項) 皮膚のリンパ管 (3項) 皮膚の神経
5	第4章 皮膚と皮膚の付属器官の生理機能	(1項) 対外保護作用 (2項) 体温調節作用 (3項) 知覚作用と皮膚反射 (4項) 分泌排泄作用 (5項) 呼吸作用 (6項) 吸収作用
6	第4章 皮膚と皮膚の付属器官の生理機能	(7項)貯蔵作用 (8項) 免疫・解毒・排除作用 (9項) 再生作用 (10項) 毛のはたらき (11項) 爪のはたらき
7	まとめ I	後期 中間試験
8	総合まとめ I	第1章～第4章(オリジナルノート作成) 理解が不十分なところを見つけ復習する。
9	第5章 皮膚と皮膚付属器官の保健	(1項) 皮膚と全身状態 (2項) 皮膚と精神 (3項) 皮膚と栄養 (4項) 皮膚と嗜好品 (5項) 皮膚と体内病変
10	第5章 皮膚と皮膚付属器官の保健	(6項) 皮膚の水分と脂の状態 (7項) 皮膚の付属器官とホルモン (8項) 皮膚と保護と手入れ (9項) 毛と保護と手入れ (10項) 爪の保護と手入れ (11項) 子どものおしやれによる皮膚トラブル
11	第6章 皮膚と皮膚付属器官の疾患	(1項) 皮膚の異常と病態 (2項) 湿疹・皮膚炎 (3項) 蕁麻疹 (4項) 薬疹 (5項) 口唇の疾患 (6項) 温熱・寒冷による皮膚疾患
12	第6章 皮膚と皮膚付属器官の疾患	(7項) 角化異常による皮膚疾患 (8項) 色素異常による皮膚疾患 (9項) 血管腫 (10項) 脂腺母斑 (11項) 下肢静脈瘤 (12項) 分泌異常による皮膚疾患
13	第6章 皮膚と皮膚付属器官の疾患	(13項) 化膿菌による皮膚疾患 (14項) ウイルスによる皮膚疾患 (15項) 真菌による皮膚疾患 (16項) 衛生害虫による皮膚疾患 (17項) 感染症の皮膚疾患予防 (18項) 毛と爪の疾患 (19項) 皮膚の腫瘍
14	まとめ II	後期 期末試験試験
15	総合まとめ II	第5章～第6章(オリジナルノート作成) 理解が不十分なところを見つけ復習する。

科目名	衛生管理	年次	1	実務経験	担当	足立 祐季
		授業形態	講義			
(英)	Hygiene management	時間数	30	有	開講区分	後期
学科	美容師科	単位	1		曜日・時間	水2～4限
講師紹介	現役美容所オーナーが現場で気をつけなくてはならない現場目線の衛生管理をお伝えします。					
目的 科目概要	美容師国家試験の科目で衛生管理学は「公衆衛生・環境衛生」「感染症」「衛生管理技術(消毒法)」の三科目に分かれており各々5問づつ出題されます。国家試験全55問のうちの15問を締めるこの教科において最終の目的は国家試験合格と足切りの回避です。ただし、この科目が美容師になった時、また日々の暮らしの中で役立っていくような知識作りをします。					
到達目標	国家試験での合格ですが、それを通過点として美容師法第1条「美容師は美容師の業務が適正に行われることで公衆衛生の向上に資すること」に忠実に実行できる美容師になるための知識を身につける。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □実技試験 □ 作品 □提出課題					
教科書	衛生管理・ノート			事前事後 学習と その内容	必ず授業中はノートを作成すること	
教材	PowerPoint					
特記事項	講義及び揭示資料について、著作権の資料を用いた場合を除き、写真撮影を許可する。					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	この科目がなぜ必要かまた授業の進め方について説明する
2	第1編第1章1節、2節公衆衛生の概要と歴史	公衆衛生とはどういうものでありまたそのなかでの歴史上の人物について学ぶ
3	第1編第1章3節4節美容師と公衆衛生、保健所について	美容師がどのように公衆衛生に係りやその最前線にある保健所の業務や素子について学ぶ
4	第1編第2章1節母子保健、成人保健 その1	子供や母親についての統計学的数字や生活習慣病などの成人についての保健を学ぶ
5	第1編第2章1節成人保健 その2	生活習慣病について具体的な例や統計学的数字を学ぶ
6	第1編第2節1章老人保健と福祉精神保健	高齢化社会における保険制度や心の病についての問題点などを学ぶ
7	中間試験 20点	公衆衛生全範囲
8	第2編第1章1節環境衛生の目的と意義、	環境衛生とはどういうものかについて学ぶ
9	第2編第1章2節空気、温度、湿度、気流と健康	空気や温度、湿度、気流と我々の関わりについて学ぶ
10	第2編第1章3節衣服と住居の衛生	衣服の意義や役割、窓や照明、冷暖房などの役割を学ぶ。
11	第2編第1章4節上下水道と廃棄物	上下水道の供給、ゴミやし尿の処理について学ぶ 8、9の範囲
12	第2編第1章5節衛生害虫とネズミ 環境保全	衛生害虫やネズミの影響や美容師が環境の破壊を起こさないようにする為の環境保全について学ぶ 10の範囲
13	第5編第1 美容所における衛生管理要領	美容師法よりもより詳しい美容所の管理運営についての管理要領について学ぶ 11、12回の範囲
14	第5編第2章 美容所における衛生管理要領	美容師法よりもより詳しい美容所の管理運営についての管理要領について学ぶ 11、12回の範囲
15	期末試験	公衆衛生 環境衛生 衛生管理要領 全範囲

科目名 (英)	美容技術理論 Beauty technoiogy theory	年次	1	実務経験	担当	加藤 亜希
		授業形態	講義			
		時間数	30	有	開講区分	後期
学科	美容師科	単位	1		曜日・時間	水2～4限
講師紹介	現役美容師として現場に立つ講師が、実践経験と技術理論をふまえ美容従事者及び国家試験受験者に向けた基本から応用を含む知識・技術をお伝えします。					
目的 科目概要	美容師やメイクアップアーティストとして、流行を提供するリーダー的存在であると同時に、基本となるベーシック理論・知識を持ってこそ、本当のプロと呼べる。美容のプロとして、お客様の立場に立ち、そして幅広く、そして専門的な知識を学びそれを生かせるようになる。					
到達目標	・美容技術における概論・名称・手順・注意事項などを焦点に、様々な美容技術の基本を学び、生かすことができる。・国家試験課題を想定して、問題を解くことができる。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A（4.0）、89点～80点B（3.0）、79点～70点C（2.0）、69点～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。（ ）は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □実技試験 □ 作品 ■ 提出課題					
教科書	美容技術理論Ⅰ・Ⅱ			事前事後 学習と その内容	※教科書をⅠとⅡ使用します。	
教材	配布したプリント・筆記用具・(iPad)・(ノート等各自)					
特記事項						

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	授業説明/4章 ヘアカットイング	オンデマンド授業での出席と成績について/美容技術理論Ⅰ(P90～)ヘアカットイングとは
2	4章 ヘアカットイング	美容技術理論Ⅰ(P94)美容刃物・ヘアカットイングの基礎理論
3	4章 ヘアカットイング	美容技術理論Ⅰ(P103～)ベーシックなカット技法・シザーズによるカット技法
4	4章 ヘアカットイング	美容技術理論Ⅰ(P108)レザーによるカット技法
5	5章 パーマネントウェーブ	美容技術理論Ⅰ(P131)パーマネントウェーブの理論・パーマ剤の分類
6	5章 パーマネントウェーブ	美容技術理論Ⅰ(P138)注意事項と技術手順
7	中間試験	1～6回の内容で試験を行う
8	試験振り返り	試験の見直しと、修正の仕方をアンダーラインを引きながら行う
9	7章 ヘアカラーリング	美容技術理論Ⅰ(P230～)色の基本/アンダートーン
10	7章 ヘアカラーリング	美容技術理論Ⅰ(P225～)ヘアカラーの種類/特徴
11	7章 ヘアカラーリング	美容技術理論Ⅰ(P229～)カラーリングの手順と注意事項
12	7章 ヘアカラーリング	美容技術理論Ⅰ(P229～)カラーリングの手順と注意事項
13	定期試験	1～12回の内容で試験を行う
14	試験の振り替えり	試験の見直しと、修正の仕方をアンダーラインを引きながら行う
15	6章 ヘアセッティング	美容技術理論Ⅰ(P

科目名 (英)	美容実習 Beauty Practice	年次	1	実務経験	担当	竹内 有美
		授業形態	実習			
		時間数	60			
学科	美容師科	単位	2	有	開講区分	後期
					曜日・時間	火3,4限・金1～4限
講師紹介	美容師として長きに渡り現場に立ち実務経験のある講師が、カットとブローの基礎的な理論・技術をわかりやすく指導します。					
目的 科目概要	目的:カットとブローの基礎的な理論・技術を習得する。 概要:カットのベーシックスタイルを学び、スタイルに合わせたブローで仕上げ、時間内に完成することができる。					
到達目標	ベーシックスタイルの理論・技術を理解でき、応用となる国家試験第一課題スタイルを習得する。正しい姿勢とシザー開閉を身につける。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ☐ 筆記試験 ☒ 実技試験					
教科書	美容実習Ⅰ 美容技術理論Ⅰ			事前事後 学習と その内容	シザー開閉の練習を行い、取り扱いに慣れる。	
教材	マニュアル・動画					
特記事項	欠席した場合は、マニュアル・動画で学習してから授業に臨む					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	後ろ下がりのグラデーションカット ウイッグ①	後ろ下がりのグラデーションカットの手順を覚える
2	後ろ下がりのグラデーションカット ウイッグ①	後ろ下がりのグラデーションカット・ブロー・セニングシザーの使い方
3	メンズカット ウイッグ①	メンズマッシュ・刈り上げ・アレンジ
4	前下がりのグラデーションカット ウイッグ②	前下がりのグラデーションカットの手順を覚える
5	前下がりのグラデーションカットウイッグ②	前下がりのグラデーションカット・ブロー・セニングシザーの使い方
6	前下がりのグラデーションカット ウイッグ③	前下がりのグラデーションカット・ブロー・セニングシザーの使い方
7	中間試験 ウイッグ④	前下がりのグラデーションカット・ブロー(60分)・デザインシート2つ作成
8	振り返り・ウイッグ③④	評価を踏まえて課題の確認・フリースタイル作成
9	セიმレングスカット ウイッグ⑤	セიმレングスカットの手順を覚える
10	セიმレングスカット ウイッグ⑤	セიმレングスカットの手順を覚える
11	セიმレングスカット ウイッグ⑥	セიმレングスカット
12	セიმレングスカット ウイッグ⑥	セიმレングスカット
13	セიმレングスカット ウイッグ⑦	セიმレングスカット
14	定期試験 ウイッグ⑧	セიმレングスカット デザインシート3つ作成
15	フリースタイル ウイッグ⑤～⑧の中から3個	フリースタイル 3スタイルを仕上げる

科目名 (英)	美容実習 Beauty Practice	年次	1	実務経験	担当	陰割美実、宮城裕美、 小坏亜矢子
		授業形態	実習			
		時間数	60			
学科	美容師科	単位	2	有	開講区分	後期
					曜日・時間	月3.,4限・火3,4限
講師紹介	長年美容師として現場に立ち実務経験のある講師が、美容師の国家試験に合格するための技術・知識・心得を習得する授業を行う。					
目的 科目概要	国家試験の目標タイムに近づけるよう正しい巻き方でスピードアップ・作品の確認・修正方法を習得する。					
到達目標	美容師科の国家試験に受かるための技術・知識を習得できる					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ☐ 筆記試験 ☒ 実技試験 ☐ 作品 ☐ 提出課題					
教科書	美容実習Ⅰ 美容技術理論Ⅰ	事前事後 学習と その内容	ロッドとペーパーでの巻き込みを素早く正確にできるようにしておく とよい			
教材	WD用具一式					
特記事項	同じことの繰り返しになるが目標を持ち取り組んでいく					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	前期の振り返り	後期授業の進め方について ブロックごとにタイムを計り修正しながら仕上げる。全頭タイム
2	国家試験スタイル	ブロックごと、全頭タイムを計る。センター・サイドの強化
3	国家試験スタイル	ブロックごと、全頭タイムを計る。フロントの強化
4	国家試験スタイル	ブロックごと、全頭タイムを計る。バックサイドの強化
5	中間試験について	全頭40分 中間試験の採点項目を理解し作品を確認する
6	中間試験の流れ	練習 全頭40分
7	中間試験	国家試験スタイル 全頭40分
8	中間試験 振り返り・返却	中間試験でできなかった箇所、部分の確認、練習
9	国家試験スタイル	ブロックごと、全頭タイムを計る
10	国家試験スタイル	定期試験の採点項目を理解し作品を確認する
11	国家試験スタイル	練習 全頭30分
12	定期試験について	定期試験の採点項目を理解し作品を確認する
13	定期試験について	定期試験の採点項目確認し作品を修正する
14	定期試験	練習 全頭30分
15	定期試験 振り返り・返却	定期試験できていなかった箇所、部分の確認、練習

科目名 (英)	美容実習 Beauty Practice	年次	1	実務経験	担当	宮城 裕美
		授業形態	実習			
		時間数	60	有	開講区分	
学科	美容師科	単位	2			曜日・時間
講師紹介	長年美容師、美容学校講師経験をしている講師が美容師の国家試験に必要な技術・知識・心得を習得する授業を行う。					
目的 科目概要	基本技術の向上を図り、実在するサロンを想定した技術と接客マナーを学ぶ。 お店での実践的な導線を学ぶ。					
到達目標	後期に行うビューティーサロンに向けサロンでの個々の動きを把握し習得する。 学んだ技術を応用し、サロンワークを体験する。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A（4.0）、89点～80点B（3.0）、79点～70点C（2.0）、69点～60点D（1.0）、59点以下を不合格とする。（ ）は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ☐ 筆記試験 ☒ 実技試験 ☐ 作品 ☐ 提出課題					
教科書	美容実習1 美容技術理論1			事前事後 学習と その内容	前期の復習をしっかりと行い、個人でのレベルを向上し、クラス全体が同じくらいの技術力になるように個人練習ではなく、数人で練習を行う。	
教材	シャンプー用具一式					
特記事項	講義及び提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	バックシャンプーの導入	2グループに分かれてバックシャンプー導入、サイドシャンプー練習 サロンワークの運営について話し合い
2	バックシャンプーの導入	2グループに分かれてバックシャンプー導入、サイドシャンプー練習
3	バックシャンプーの導入	2グループに分かれてバックシャンプー導入、サイドシャンプー練習
4	バックシャンプーの導入	2グループに分かれてバックシャンプー導入、サイドシャンプー練習
5	中間試験について	2グループに分かれサロンワーク フィードバック
6	サロンワーク実践 ブローの強化	前回の反省を生かしてサロンワーク フィードバック
7	中間試験	サロンワーク フィードバック
8	中間試験 振り返り・返却	2グループに分かれサロンワーク フィードバック
9	サロンワーク実践 ブローの強化	2グループに分かれ前回の反省を生かしサロンワーク フィードバック
10	ビューティーサロンにむけて	2グループに分かれ前回の反省を生かしサロンワーク フィードバック
11	ビューティーサロンにむけて	サロンワーク
12	ビューティーサロンにむけて	2グループに分かれ前回の反省を生かしサロンワーク フィードバック
13	定期試験について	サロンワークの練習 フィードバック
14	定期試験	サロンワーク
15	定期試験 振り返り・返却	定期試験の振り返り

科目名 (英)	美容実習 Beauty Practice	年次	1	実務経験	担当	小坏亜矢子、陰割美実
		授業形態	実習			
		時間数	60			
学科	美容師科	単位	2	有	開講区分	後期
					曜日・時間	火3,4限・金1～4限
講師紹介	長らく培った美容師・美容学校教員としての経験を生かし、国家試験課題の技術をわかりやすく指導、また個々の技術力や理解力を把握し、個々に合った指導を行う。学ぶ事の苦手意識が克服できるように努め、主体性が発揮出来る授業展開をします。					
目的 科目概要	目的:美容師国家試験の基礎知識、基礎技術を学び、国家試験に合格する力をつける。 概要:国家試験科目であるオールウェーブセッティング、衛生を学ぶ。手順や技術等を学びながら、国家試験の採点項目に沿って、技術向上を目指す。					
到達目標	美容師国家試験に合格するための技術・知識・心構えを習得する。4段目リフトカールまでをタイム内でマニュアル通り忠実に作る。					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の8割に満たない場合は試験を受けることができない。 ☐ 筆記試験 ☒ 実技試験 ☐ 作品 ☐ 提出課題					
教科書	美容実習Ⅰ 美容技術理論Ⅰ			事前事後 学習と その内容	マニュアルや動画を参照し、多数の技法を理解し、習得できるよう復習する。	
教材	タブレット(teamsのマニュアル、動画)					
特記事項	マニュアル / 動画にたくさん細かい説明等を書きこむ。理解できなかった事は、その日に必ず質問し、理解しないままにしない。					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	・教材について ・1段目馬蹄形を作る	・用具の説明、セッティング・セニング・ローションのつけ方・コームの使い方・マニュアル配布 ・ハーフウェーブの作り方 ・馬蹄形を作る
2	・1段目馬蹄形の復習 ・1段目スカルプチュアカールを作る	・正しい馬蹄形を作る＊立ち位置、指の向きにきをつける ・スカルプチュアカールの作り方、スライス取り、ピンングを覚える(8分)
3	・スカルプチュアカールをtタイムで作る ・2段目半円シェーブとリッジを作る	・スカルプチュアカール6分 ・2段目かき出し、半円シェーブ、リッジの作り方を覚える
4	・2段目リッジまでの復習	・スカルプチュアカール6分 ・馬蹄形～2段目リッジまで15分 ・正確な半円とリッジを作る
5	・中間試験の採点項目について ・3段目分け取りと3段目左右ウェーブ、リッジを作る	・中間試験採点項目を把握する ・3段目左右ウェーブとリッジを、幅や分け取り方を注意して作る
6	・中間試験の練習 ・3段目左右リッジまで	・2段目リッジまで15分 / 3段目の半円、分け取り、左右ウェーブ5分 ・馬蹄形～3段目左右ウェーブまで20分
7	・中間試験	試験内容:馬蹄形～3段目左右ウェーブまで 20分 採点・評価・振り返り
8	・中間試験までの復習 ・3段目スカルプチュアカールを作る ・カールスペースを習得する	・中心の幅、ウェーブ幅、3段目分け取り、リッジの強化 ・馬蹄形～3段目スカルプチュアカールまで25分 ・セニングを入れる
9	・左右7段ウェーブを作る	・中心の幅、ウェーブ幅、各段の分け取り、リッジの強化 ・7段ウェーブ30分(3段目スカルプチュアカール込み) ・セニングを入れる
10	・7段ウェーブのクオリティーとタイムアップ ・定期試験採点項目について	・中心の幅、ウェーブ幅、各段の分け取り、リッジの強化 ・採点項目を理解して練習
11	・7段ウェーブのクオリティーとタイムアップ ・7段目ウェーブまでのチェック	・中心の幅、ウェーブ幅、3段目分け取り、リッジの強化 左右7段ウェーブまで30分
12	・7段ウェーブのクオリティーとタイムアップ	・中心の幅、ウェーブ幅、3段目分け取り、リッジの強化 ・7段ウェーブ25分(3段目スカルプチュアカール込み)
13	・7段ウェーブのクオリティーとタイムアップ	・中心の幅、ウェーブ幅、3段目分け取り、リッジの強化 ・7段ウェーブ25分(3段目スカルプチュアカール込み)
14	・定期試験	試験内容:左右7段ウェーブまで25分
15	・7段ウェーブのクオリティーとタイムアップ ・4段目リフトカールを作る ・2年次について	・定期試験で減点された技術向上を図る ・4段目リフトカールのクオリティーアップ(5分)★位置・大きさ・ステム強化

科目名 (英)	美容総合技術 Comprehensive beauty technology	年次	1	実務経験	担当	遠藤智緒里、荒谷健太、足立祐季、大和田一樹、福島裕司、岩本理絵、野村奈緒
		授業形態	演習			
		時間数	180	有	開講区分	後期
学科	美容師科	単位	6		曜日・時間	火1,2／木1～4限
講師紹介	美容業界に従事してきた講師が、就職活動に向けコミュニケーションスキルや社会人に必要な知識を習得する授業を行う。自身が身に付けた美容業界で必要とされるための知識・コミュニケーション力の発揮の仕方などをお伝えします。					
目的 科目概要	業界で活躍するプロから最新の技術と現場力を学ぶ。					
到達目標	常に、お客様、モデルを想定しての接客・応用技術を身に付ける					
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。()は、GPA。なお、出席率が学則に定める授業時間数の7割に満たない場合は試験を受けることができない。 ☐ 筆記試験 ☒ 実技試験 ☒ 作品					
教科書				事前事後 学習と その内容	それぞれ自己の強をつくる授業になります。	
教材	教材一式					
特記事項	講義及び掲示物について、著作権のある資料も使うことがある為 写真撮影及び録音録画を禁止する					

授 業 計 画		
回数	授業テーマ	授業内容
1	美容全般の技術を学ぶ①	ヘア、メイク、ブライダルの幅広い技術の応用 基礎技術の振り返り
2	美容全般の技術を学ぶ②	ヘア、メイク、ブライダルの幅広い技術の応用 基礎技術の振り返り
3	美容全般の技術を学ぶ③	ヘア、メイク、ブライダルの幅広い技術の応用 基礎技術の振り返り
4	美容全般の技術を学ぶ④	ヘア、メイク、ブライダルの幅広い技術の応用 現場に応じた一連の作業工程を学ぶ
5	美容全般の技術を学ぶ⑤	ヘア、メイク、ブライダルの幅広い技術の応用 現場に応じた一連の作業工程を学ぶ
6	美容全般の技術を学ぶ⑥	ヘア、メイク、ブライダルの幅広い技術の応用 現場に応じた一連の作業工程を学ぶ
7	プレゼンテーション①	テーマに合わせた作品のプレゼンテーションを実施する
8	美容全般の技術を学ぶ②	お客様が求めている要望、クライアントからの要望などテーマ設定を行い、その想定シロールプレイで実施する
9	美容全般の技術を学ぶ②	お客様が求めている要望、クライアントからの要望などテーマ設定を行い、その想定シロールプレイで実施する
10	美容全般の技術を学ぶ②	お客様が求めている要望、クライアントからの要望などテーマ設定を行い、その想定シロールプレイで実施する
11	美容全般の技術を学ぶ②	8～9回の授業振り返り、課題の克服する
12	美容全般の技術を学ぶ②	お客様が求めている要望、クライアントからの要望などテーマ設定を行い、その想定シロールプレイで実施する
13	美容全般の技術を学ぶ②	お客様が求めている要望、クライアントからの要望などテーマ設定を行い、その想定シロールプレイで実施する
14	美容全般の技術を学ぶ③	お客様が求めている要望、クライアントからの要望などテーマ設定を行い、その想定シロールプレイで実施する
15	美容全般の技術を学ぶ③	プロから評価をしていただく